

空知地区 教育経営研究会

- 1 目的 北海道小学校長会・北海道中学校長会、及び地区校長会が抱えている教育経営上の具体的な課題を取り上げ、その解決の方途を法制研究の視点から探る。
- 2 主催 北海道小学校長会 北海道中学校長会
- 3 後援 北海道教育庁空知教育局
空知管内市町教育委員会教育長会
- 4 主管 空知校長会
- 5 日時 令和元年11月6日(水)
- 6 会場 ホテルサンプラザ(岩見沢市)
- 7 参加者 空知管内小中学校長会会員他(105名)
- 8 日程 12:30～13:00 受付
13:00～13:30 開会式
13:40～14:30 研究協議
14:40～16:15 ワークショップ・講評
16:15～16:30 閉会式

9 研究協議

(1) 最近の教育情勢報告

全道：北海道小学校長会 会計理事 吉田 信興 氏
管内：空知校長会 事務局次長 喜多 慎治 氏

(2) 空知地区からの質問・要望事項に対する回答

北海道小学校長会 経営部幹事 末原 恵蔵 氏
北海道中学校長会 対策部幹事 井村 信 氏

◆プログラミング教育推進に係る現状と課題について

プログラミング教育の実践をすでに行っている学校は30%程度。研修を行った学校は50%程度と調査結果から明らかになっている。また、プログラミング教育推進に関わり、不安を感じている割合は70%にのぼっている。昨年度よりプログラミング教育に係る研修の実施や管内に推進教師を配置していることから活用していくことが期待される。

◆事務職員の教頭昇任に係る現状と課題について

事務職員の教頭昇任に伴い、受検の資格要件として教員免許の所有について確認。結果として、事務職員が教頭昇任の受検の際、教員免許の所有については求めないという回答。しかし、教頭に昇任した場合、教員免許を所有していない場合は、授業を行うことはできないということなので注意が必要。

◆北海道アクション・プランに係る進捗状況と課題について

勤務時間外の家庭等からの連絡等への対応として留守番電話の導入やメールを活用するケースが見られる。また、学校における業務改善に向け、民間のコンサルタントを活用する事業も道内1校で導入とのこと。

中学校における部活動については、北海道教育委員会も関係する団体に、部活動の活動方針をもとに、土日の休養日の設定を実効性のあるものにできるよう大会の開催日程や大会数など配慮等を求めている

10 ワークショップ(12グループ)

小学校グループ、中学校グループそれぞれ、以下のように想定された学校をもとに、課題を明確に

し、その学校において、校長として「実効性のある働き方改革」を進めるためにどのような改革をどんな策を講じながら行うのかについてグループで演習協議を行った。

(1) 小学校グループ

【想定した学校の概略】

各学年2学級、知的学級、情緒学級が各1学級ずつの全14学級の中規模小学校。
市の研究指定校になっており、公開研究会の実施や学校視察の受け入れなどの業務が多くある。
職員は日々の授業実践や公開研究会の準備を精力的に行っている。
児童に関わる保護者からの相談等の電話も多数あり、退勤が20時を過ぎるほど業務に追われている。
教頭は対外業務に多くの時間をさかれ、職員とのコミュニケーション不足。

【グループでの協議】

- 新学習指導要領完全実施に向け、行事のねらいをもとに学校として行事の削減を行うとともに、分掌業務についても必要性をもとに改革を行う。
- さらに一人に業務が偏らないよう、業務の軽重を考え、必要に応じて担当を変えたり、シェアしていくことが必要。そうした取組を進める上で、校長として積極的に関わっていく必要がある。
- また、業務のシェアという視点では、事務職員も積極的に活用していくという方法も進めることが大切である。
- 教頭のコミュニケーション不足の改善に向けた校長としての取組は、対外的業務の負担軽減について、連携して行える関係団体の有無や学校に関わるべき内容なのかについて精査し、教頭が学校運営にしっかりと時間を使える環境づくりを進めていく必要がある。
- これらのことを行いながら、年度の途中でも業務改善と組織的な学校作りを進めていく必要がある。

(2) 中学校グループ

【想定した学校の概略】

各学年2学級、知的学級1学級の中規模校。
部活動の数も多く、職員全員が部活動の顧問となり運営。保護者も部活動に熱心で、期待も高い。
町に1校の中学校のため、地域の行事参加も多数。
部活動の休養日を設定しているが、例外が認められ形骸化。
部活動終了後に様々な業務を行うため、退勤が20時を過ぎるほど業務に追われている。
教頭は、部活動の意義を高く評価している。

【グループでの協議】

- 中学校の働き方改革を進める上で、部活動の適正化をどう進めていくのかを中心に策を考えた。
- 道・市町・学校での部活動に係る活動方針をしっかりと実効性のあるものにしていく必要がある。
- 内容を徹底していくために保護者、地域にも働き方改革も含め、部活動の方針を周知していく必要がある。
- 職員の意識改革に向けて職員研修を行ったり、スポンサー会議を開催しながら着実に実行させる。
- 進行管理をしっかりと行上で活動計画や休養日等の記録を見える化する。さらに、職員や保護者の意識改革をする上で、それらをデータとして活用していく。
- 時間外勤務縮減のための退勤時間の設定についても目的と意義を保護者・地域へ発信を行う。
- 校長と教頭の価値観をしっかりと一致させることが必要。部活動に意義を感じている教頭であったとしても、教育情勢をしっかりと捉え適切に教職員へ指導できるように校長として導いていく必要がある。

11 閉会式

ワークショップでの交流会に続き、空知教育局泉山指導監から講評をいただいた後に、閉会式を開催。空知校長会佐々木副会長の主催者挨拶で閉会した。